



長 崎 県
中小企業家同友会

DOYU

ニュース
21

E-mail jim@nagasaki.doyu.jp
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

「私たち中小企業家が長崎県を牽引していく」 ～同友会の学びで時代の変化をチャンスに!～

中同協 第20回 障害者問題全国交流会 in 滋賀 参加報告

日時：10月17・18日(木・金) 会場：琵琶湖ホテル

第2分科会

ダイバーシティが生み出す宝物

～19人総活躍会社を目指す社の取り組み～

(有)川田製作所 取締役副社長 川田 俊介 氏

長崎出島支部 貞松 徹

新・ダイバーシティ経営企業100選(経済産業省)に選定された(有)川田製作所の川田さんの報告は「可能性は無限である。」というメッセージからはじまりました。

1969年創業の川田製作所は、米粒サイズから手のひらサイズまでの金型製作や金属プレスを主とし、自動車、パソコンの部品供給を行っています。

川田さんが入社した2010年当時の社員数は14名。そのうち55歳以上の方が全体の8割であり10年以内に大部分の人が引退するという現実と、発注が海外へと移管されることや、一社依存率の高さもあり年ごとの売り上げの浮き沈みが激しい会社だったそうです。10年が経過した今、川田製作所で勤務する職員は19名。うち障がい者6名、ベトナム人技能実習生1名の他、地元に住むフィリピン籍の職員も勤務しています。

職員と過ごすにあたって大切にしていることは個々の職員の苦手なことを理解すること。高齢者、障がい



者という属性で見るのではなく個性や特徴を見ること。苦手なことを理解し、会社として工夫できることを考える。得意なものを見つけ、得意なことに変換し、引き出し、自身の苦手は得意な人に任せる。そこから生まれる仕組みのループこそがダイバーシティなのだ」と報告されていました。

ダイバーシティ経営を進めていくためには、問題や課題を減らすために予防するのではなく、それを受け止める文化をつくること。価値観の違い、文化の違い、言葉の違い、そして個性を受け止め、起こってくるネガティブな現象をポジティブなものへと転換させる文化を育てていくこと。そこには川田さんの経営者としての圧倒的な優しさを感じることができました。

初めての全国大会への参加でしたが、発表者の川田

目次

中同協 第20回 障害者問題全国交流会 in 滋賀 参加報告	1	事務局企業訪問	8
各界からの提言	3	新入会員紹介	9
11月例会報告	4	書籍紹介	9
九州・沖縄ブロック代表者会議及び中同協 第2回 幹事会 参加報告...	5	理事会報告	10
第2回 長崎県中小企業振興基本条例策定プロジェクト集会 開催報告...	6	会員動向・会員数	11
インターンシップ受け入れ報告(県共同求人委員会)	6	12月例会案内	12
会員活躍	7		

さんだけではなく、グループディスカッションの参加者それぞれが、テーマに対しての思いを言語化できていると感じました。もしくは日々の経営の中で実践されている方々の集まりだからこそ、その印象を

持ったのかも知れません。一見、ジブンゴトに感じないテーマであっても、まずはトナリゴトとして認識し、ジブンゴトに転換していくこと。ダイバーシティで求められているのはそういうことかも知れません。

見学分科会

障害者雇用なんてムリ!と思いついでいるあなたへ

～人を生かす経営で心のバリアを取っ払え!～

(株)ピアライフ 代表取締役 **永井 茂一 氏**

(株)ピアライフ 賃貸事業部担当 **大川 葵 氏**

長崎出島支部 中村 耕司

障がい者雇用について同友会会員をはじめとする全国の企業が様々な取り組みを行なっている。自社企業にあった取り組みやコンサルタントを中心に行う取り組みなど多岐にわたる。その中で同じような意見が出てくる。障がい者は何ができるのか、障がい者を雇用するにあたって他の社員にはどう説明したらいいのか、戦力としてどう扱ったらいいのか、そもそもわからない、などなど。

どの会社も、ただ抱いてるイメージの中だけの話で一度も障がい者雇用の経験がない会社の話である。

その中で今回滋賀同友会の代表理事を務める永井さんの障がい者を特別な存在とせずありのままに受け入れることから始めようという考えは、まさにインクルーシブ社会の構築の第一歩である。

経営不振の会社を若くして引き継ぎ、社風を何とか変えたいと同友会に入会。そこで出会った障がい者に、人を生かす経営を学ばせてもらっている、と。その中にリレー報告者でもある大川氏の話聞かせていただいた。

聴覚に障害のある大川氏のリレー報告は幼い頃のご家族とのエピソードや永井さんの会社に入社した時の思い出、現在は事務職の他に、接客もできるまでに成長したエピソードをお話しされました。また朝礼時には5分間の手話講座を社員向けに行なっているとも。

それは、入社時、自らが社長にお願いをして私と同じように聴覚に障害のある人のことをみなさんに少しでも理解してほしいという思いの込められた手話講座である。ともに働くことにより、互いを理解し認め合い、どこかに隠れている心のバリアを取っ払い、同じ人として接する。

それにより「今まで難しい、無理だ、ハードル高いしそんな余裕ないよ」というネガティブ思考の頭を再度切り替え、障がい者って言っても何も健常者と変わらない、むしろ障がい者雇用をして会社がいい会社になった、と思えてくるだろう。

第5分科会

多様な人々が輝くために

～発達障害者が運転免許証を取れる「つばさプラン」～

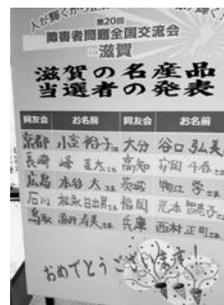
(株)鹿沼自動車教習所 **古澤 正巳 氏**

NPO法人 CCV **福田 由美 氏**

同友会事務局 峰 圭太

「この子らを世の光に」。これは交流会2日目に鑑賞したNHKスペシャルの番組です。今から約70年前に社会福祉に大きく貢献された糸賀一雄さんとその仲間の特集番組でした。「この子らに世の光を」という受動的な意味ではなく、重度の障がい児であっても人間としての生命の展開を支えることを理念とした考えから「この子らを世の光に」というメッセージは、初めて障全交に参加させていただいた私にとっては深く胸に突き刺さる言葉でした。同様に第20回を数える本交流会は1983年、第1回の開催地と同じ滋賀で開かれたことにも意義深いものを感じました。

パネルディスカッションにて、中同協障害者問題委員長長の比嘉さんは、「障がい者の雇用に関して賞をいただくという話があった際、それを受け取ってしまう



と障がい者雇用が特別なことになる」ということで受賞をずっと辞退されているという話を聞きました。障がい者雇用は当たり前のこと。このような考え方をあらためて実践者の口から聞くと重く、深い意味を感じました。

分科会でも多様性を生かす地域社会を広げていくことが重要であり、そのためにも地域の中小企業の役割は大きいということを学びました。

長崎同友会でも前身の委員会から今のダイバーシティ委員会になり4年目を迎え、委員会例会も第13回開催していますが直接の担当ではないことを理由に、恥ずかしながら一度の参加もしていません。今後は自分事としてしっかりとらえ、局内や会内を通じてさらに学び、「いつかはなくなる委員会」活動の一助になればと思います。

余談ですが、当日参加者の中でも10名限定という滋賀の名産品プレゼント当選者に見事選ばれました。参加させていただき、いろいろな意味でありがとうございました。

各界からの提言

長崎文化放送 代表取締役社長 壹岐 正



プロフィール

- ・生年月日：昭和35年(1960年)1月27日 出身地：福岡市
- ・昭和57年(1982年)3月 成蹊大学法学部卒業
- ・昭和57年4月1日 全国朝日放送(現テレビ朝日)入社
同 営業局CM部配属
- ・平成13年(2001年) 同 営業局スポット営業部長
- ・平成19年 同 スポーツ局長
- ・平成22年 B S朝日 執行役員
- ・平成26年 文化工房 社長
- ・平成28年(2016年) 長崎文化放送 社長
- ・令和元年 現在に至る

私は長崎に来て4年目の余所者です。日々馴染んで来ており地域と同化していると自認していますが、長崎弁も儘なりませんし地元の皆様からするとまだまだの若輩者です。そんな私が「DOYUニュース21」で皆様に向けて提言とは甚だ僭越ではありますが、折角の機会ですので思いつくままに記させていただきます。

まず、皆様との出会いは2年半前の春、第46回定時総会に出席させていただいた時から始まります。会場の“熱気”と皆様の“意気込み”に驚き感動したことを鮮明に覚えています。爾来、この「DOYUニュース21」を毎月拝読するのを楽しみにするとともに勉強をさせていただいています。

私共、長崎文化放送（以下、NCC）は1990年4月1日に放送を開始した長崎で3番目の放送局です。来年で漸く30年を迎えます。

昨年1月、30年を控えて『NCCビジョン』と『5つの誓い』を発表しました。ビジョンに掲げたのは「私たちは日々の仕事を通じて地域の元気を創造します」というものです。私たちは長崎県内のみならず放送を許された地域限定の放送事業者です。ですから地域の方々のお力添え

があってこそこの企業です。地域に根差したメディアとして長崎県の魅力を国内外にどう発信していくのか？そもそもながさき県の魅力とは何か？その魅力は十分伝わっているのか？洗練されているのか？そんな問題意識の下で、今年4月から毎週土曜日9時半放送の「トコトンサタデー」で県内21自治体を巡る生中継を実施しています。各市町長にも基本、生出演していただき地元のPRをお願いしています。そこで必ず最重要課題としてお話しされるのは人口減少と若者の流失です。これは長崎県だけに限ったことではありませんが、他県に比してより危機的状況にあるのは間違いありません。弊社も新卒採用は年々厳しくなっています。県内の諸課題解決と活性化にメディアとしてどう役立つのか、そしてどう人呼び込めるかもメディアとしての重要な使命だと思います。

皆様の積極的な活動を拝見するにあたって、次なるテーマは地域の魅力的な企業活動をもっと紹介することだと痛感しています。延いては就活にも繋がるのではないのでしょうか。簡単にはいかないことではと思いますが一緒に考え実現できればと愚考致します。

大村支部 例会報告

日 時	10月17日(木) 18:30～21:00
会 場	プラットフォーム大会議室
テ ー マ	ひろがる無限の可能性 ～未来を支える生徒の夢・希望・実践を知ろう～
報 告 者	長崎県立ろう学校 荒木 誠治 氏 長崎県立 虹の原特別支援学校 山下 祐司 氏 (有)トップウォーターメイツスイムクラブ 木下 紗菜栄 会員



荒木氏の報告では、学校の沿革・概要説明があり、卒業生の就職率や就業定着率の高さに驚き、また就業先が大手（トヨタや日産等）だということに様々な気付きを持った方が多かったようだ。

山下氏の報告では、今回で同友会での報告が3回目となり、山下氏の報告がこの一年間の県ダイバーシティ委員会を中心とする同友会の障がい者雇用（実習受入）への推進力となったような気がする。内容としては、特に実習受入の事例を紹介いただき、障がい者の実習受入や雇用についての具体的イメージを参加者に与えるものであった。

また両校の共通点として感じたことは、教育内容が小～高等部一貫して段階的に社会性の身に着けを重視し就業も視野に入れた教育内容や支援体制に素晴らしさを感じた。

木下さんの報告では、若い彼女であるが、新事業部門を立ち上げ、尚且つそこで障がい者が取り組めることをというもう一歩踏込んだチャレンジ魂が見え、経



営者としてすごく新鮮で伸び盛りだなと感じた。苦労もあるだろうがそれを前向きに工夫する発想と実行力が素晴らしい。

グループディスカッションでは、「うちの会社ではこういう仕事ができるかも」と皆が前向きに考え受け入れを考えたいと思った会員が多かったようだ。「同友会の会社で協力して雇用体制ができるのでは」との面白そうな意見もあった。「障害と言っても一様ではない。多様性を認め個々を見なくては」との話が多く聞かれた。まさに、ダイバーシティの根本である。

私的感想として、会社を経営していても問題、いわゆる障害に出くわすことはある。その一つ一つの障害を乗り越えることで会社は成長するのだと思う。障害は乗り越えるためにあるもの。障がい者の障害は、社会や会社が共に創意工夫で乗り越えることでそれは障がい(者)ではなくなるしそのことで会社自身の新たな成長の可能性を秘めていると感じる。

(文責 堤 康博)

広告募集

< 4cm x 9cm >

複数月 割引	6ヶ月	12,000 → 10,000
	4ヶ月	8,000 → 7,000
	3ヶ月	6,000 → 5,000

九州・沖縄ブロック代表者会議 及び 中同協 第2回 幹事会 参加報告

日時：10月7・8日(月・火) 会場：TKP田町カンファレンスセンター

代表理事 金井 政春

九州・沖縄ブロック代表者会議は、九州各県から代表理事や副代表理事、事務局員を合わせ25名、中同協から3名の合計28名の参加で開催されました。

2日間の会議で感じたことは各県により活動が違っていることでした。社員教育塾(5回シリーズ)社員と社長と一緒に受講する教育塾等が開催され長崎同友会も検討する必要性を感じました。経営指針づくりに関して各県開催されているようですが、参加費はバラバラで8回シリーズ1万円から7回で5万円、一泊二日、6回で25万円とあり大変驚きました。新入会員オリエンテーションを支部長、スポンサーは必ず参加のもと、毎月開催している同友会もありました。会員増強は日々決算として毎日役員は情報を共有しているとの報告を聞き益々驚きました。その他、長崎同友会も取り組んでいますが、大学、他団体、報道機関との連携。役員研修会を年3回開催、信用金庫との連携強化で会員を紹介いただいた同友会もあり、長崎同友会ももう一步活動を深める努力が必要と感じました。

2日目午後からの第2回幹事会は対象者157名中92名の幹事の方の参加により開催されました。全国

大会の開催報告と収支報告、これから開催される全国大会の開催主旨等の報告があり随時承認されました。

その後は中同協50周年5万名会員達成に向けたグループ討論がありました。残念ながら9月は二桁会員増の同友会が無かったことに危機感が感じられ、最後に各県年度末までの会員数の実数について発表があり、期首目標数必達の決意表明がありました。長崎同友会も3月末までに900名の目標に向かって頑張りましょう。

今回は飛行機の都合上九州・沖縄ブロックの会議まで2時間程の時間があり事務局を通じて東京同友会の企業訪問を企画してもらい、築地にある(株)アクアを訪問させていただきました。銀座から3分のビルの一室で90名の社員さんが働かれ、平均年齢27歳、業種別人気企業ランキング1位になったそうです。

何の予備知識もなく訪問した私は驚きと感動の連続でした。アクアはイラスト・デジタルコンテンツの企画・制作力を強みに企業とユーザーのつながりを創り出すクリエイティブカンパニーでした。大学卒業後超大手テレビ局を3年で退職され26歳での創業からのお話しを聞いてみたいと思いました。「依頼があれば長崎同友会でも報告しても良いよ」と気さくに言っていただきました。

改めて同友会のネットワークのすごさを感じました。

専務理事 山口 善也

1日目は2019年度前半期各県の活動のまとめと後半期への課題を各県の代表の方が発表されました。

①各県の情勢では、インバウンドやラグビーワールドカップなどの影響もあり観光面では好景気の所が多いうでしたが、日韓問題や10月からの消費税の増税で消費が落ち込まないか危惧しているところもありました。全県的に人手不足で人材の確保が難しい状況でした。②企業づくり、地域づくり、同友会づくり活動では、経営指針の成文化セミナーについて各県の日程や金額について意見交換がなされ宿泊代も含め高額な県もあり各県特色のあるセミナーを開催されているようでした。地域づくりは金融機関との連携状況や長崎市の条例策定プロジェクトチームの報告などがおこなわれました。同友会づくりについては熊本青全交の振り返りや支部分割など長崎同友会の問題も報告し意見交換をしました。11月30日には宮崎同友会の青年部設立総会を開催予定とのことです。③会員増強の取り組みについては、各県増と強に分けて、増はしっかりとした目標達成へ向けての取り組みとして、金融機関や他団体からの紹介やプレジデントの記事やメディアでの告知などツールを使いながらの入会促進、強については新入会員オリ

エンテーションや交流会などの開催が報告されました。

まとめでは、働き方改革による勤務時間の減少や休日増加で如何にして生産性を向上させ業績を上げていくか真剣に考えなければいけない、そのために同友会運動と企業づくりを不離一体とし新しい学びも実践しながら学んでいかなければ生き残っていけない時代になってきているとのことでした。

最後に青年部連絡会の活動について意見交換をおこないました。①ブロック内の立ち位置について(各県の有志が集まり活動している、今後は事務局を通して各県の青年部の部会長などを確認し連絡先を明確化する。)②会議、例会場の手配や費用負担などについて(現在は持ち回りで会議や合同例会をおこなっており会場費などは担当県で負担していただいているが各県で分担や予算を取って負担が大きくなるようにしたい。今後検討していく。)③合同例会開催までの流れについて(来年度の2021年1月に長崎で合同例会を開催予定、詳細は今後協議内容を提案の上決定していく。※議事録の共有も含め)④事務局の関りについて(情報共有や連絡方法の確認も含め関わっていただく。)まだまだ各県への活動の情報共有がなされていない状況なので、事務局などを通してしっかりと共有する仕組みつくっていきたくと思います。

第2回 長崎市中小企業振興基本条例策定プロジェクト集会 開催報告

日時：10月21日(月)19:00 会場：松藤プラザ「えきまえ」いきいきひろば

報告者：長崎市中小企業振興基本条例策定プロジェクトリーダー 吉澤 健 会員（長崎浦上支部）

県政策委員長 時 忠之 会員

8月30日にマクドナルド長崎浜町店で開催された長崎市中小企業振興基本条例策定プロジェクトキックオフ集会に続き、第2回目を開催しました。1回目は会員のみでの開催でしたが、今回は長崎市議会議員、市職員のみなさまや大村市中小企業振興会議の会長を務める長崎大学の山口准教授にもゲスト参加いただきました。

冒頭、金井代表理事の挨拶では中小企業振興基本条例の全国での状況や、中小企業家同友会が全国において条例制定運動をどのように行っているかのお話をいただきました。

プロジェクトリーダーの吉澤さんは、中小企業振興基本条例とは何か、なぜ条例が必要なのか、振興会議が担保される条例の重要性を話されました。

県政策委員長の時さんは、大村市中小企業振興会議の事例を中心に話され、改めて条例の必要性を訴えられ、山口准教授からも大村の事例をもとに条例や振興会議の意義をお話いただき、具体的な事例を知ることによって条例や振興会議の重要性について理解を深めることができました。

ゲスト参加いただきました長崎市議会議員、長崎市役所職員の皆さまからも自己紹介とひとことずつコメントをいただき、みなさまの意見・想いを共有することができました。



閉会のあいさつでは中村副代表理事から行政や他団体のみなさまと協力し、一体となってすすめていきたいと思いますという言葉で締められ、今回の集会では様々な事例を聞くことで、初めての参加者にとっては条例がなぜ必要なのか知ることができ、2回目の参加者はより条例に対する理解が深まったようでした。

今後の長崎市の活性化のためには振興会議を担保する条例の制定はゴールではなく、皆が協力し同じ想いを持って歩みを進めることが重要であることが確認されました。

今後の進捗については随時広報誌等で報告させていただきます。

(文責 事務局 田口 友廣)

インターンシップ受け入れ報告（県共同求人委員会）

大村支部 大塚 正一
((株)琴花園)

(株)琴花園で長崎純心大学3年生 脇山莉加さんを5日間受入れました。

応募動機には幼少期からフラワーアレンジメントなどを習い、花に興味があり実際の販売現場を体験してみたいとのことでしたが、大学側担当の小森先生との打ち合わせで「同じ業務だけでなく色々な事を経験して視野を広げてもらいたい」とのことでしたので、会社概要、経営基本方針の説明、生産部、リース部、販売部、県北営業所、エクステリア工事部など弊社の行っている全ての部署の説明や体験をしていただきました。勿論、初めての体験ばかりで戸惑いもあったようですが明るく対応しており、「目的や目標を持って行動することの大切さ」「難しいことにチャレンジする事に魅



力を感じた」など、感想をいただき社会人になる学びになったのかと思います。

人口減少時代、県内市場が縮小していく中で、新規人材の確保や育成が大きな経営課題となる。特に、私たち中小企業にとっての大きな課題は、自社の業務や社風に合う若い人材を見出す方法や採用方法、また、採用後の人材育成による雇用の定着化である。

この経営課題の解決策としてインターンシップが目ざされている。中小企業を日本経済の主役と位置付ける同友会にとって、インターンシップは産学官連携の一環であり、「同友会理念を柱にした共に学び育ちあう環境を地域にも広げていく活動」である。これは、中小企業に対する「正しい認識」や「素晴らしい魅力」を教育機関と連携しながら若者に伝え、若者を地域に残し、地域全体で若者を育てる「社会教育運動」とも言える。また、運動を広める会員企業にとっては、経営者も含め、社員の意識の変革を促し、自社を見直す良い契機となる。

同友会が提案するインターンシップ

【学生にとって】

働く楽しさを実感でき、学生の自立を促す契機となる。中小企業を知り、就職・地元企業のイメージが豊かになる。コミュニケーションの大切さに気づき、組織に身を置くことによって問題意識が磨かれ、復学後の学習意欲が引き出される。社長の抱持ちでは、企業家精神を学ぶこともできる。

【学校にとって】

学生の変化や成長を通して学校教育の内容を再考する契機となる。また、地元企業への送り出しは、進路指導にあたる先生や学校自体の視野が拡大に繋がる。中小企業についての理解が深まることで、学校と中小

企業が地域の課題を一緒に解決する契機となる。

【企業にとって】

経営者が経営指針（経営理念・10年ビジョン・経営方針・経営計画）と社員共育を再考し、三位一体の経営をアップデートできる契機となる。また、若者の受け入れは、自社の人材育成に繋がる。受け入れ態勢の整備は、社内体制の見直しの契機となり、採用力の強化に繋がる。社員が学生に仕事をわかりやすく説明することは、自社の経営理念と自らの仕事の関わりを見直す職業観の醸成に繋がる。社会や地域貢献の理解が全社的に広がり、仕事に誇りが持てるようになる。自社についての正しい理解が広がると、学生が受け入れ企業を就職対象として考えるようになる。

【地域にとって】

学生にとっては、地域に根づく産業や企業を知る機会となり、若者が地域に残り、地域の活性化、街づくりに繋がる。地域の教育機関、行政、地元企業の連携が促進され、産官学が一体となった地域づくりに繋がる。

【同友会にとって】

教育機関・行政・地域との信頼関係が構築され、県内で同友会活動の理解が深まる。中小企業についての正しい理解が広がり、学生が就職対象として中小企業を考えるようになる。同友会理念を学校や学生を通して社会に広げ、企業観・社会観・職業観などを変えていくことに繋がる。学校や行政との対応で役員や会員、事務局の力量が試され、成長の機会となる。

会員活躍

長崎新聞 10月21日 大村支部 大塚 正一 会員



遠藤教育長（左）にチューリップの球根を手渡す大塚社長
＝大村市役所

降、毎年小学1年生に贈る計画という。
市役所であった贈呈式で大塚真一社長が「子どもたちが家族や友人と一緒に植えることで、優しい心も育ててほしい」とあいさつし、遠藤雅己教育長に球根を手渡した。遠藤教育長は「さまざまな色の花が咲くので、子どもたちも喜ぶだろう」と謝辞を述べた。
(荒木竜樹)

チューリップの球根
小学1年生に贈る
大村・琴花園
造園業の琴花園(大村市)は16日、市内全ての小学1年の児童約千人に、チューリップの球根5個ずつ(約50万円分)を贈った。
花と緑に親しみ、育てる機会を子どもたちに提供する同社の「花育活動」の一環で初めて実施。本年度以

事務局企業訪問

今回の企業訪問は島原支部（株）雲仙湯けむりファームの代表取締役、（株）雲仙きのこ本舗の常務取締役の肩書を持ち、両社の管理職として活躍されている楠田 喜隆さんです。

【創業者の祖父、父である経営者の背中】



創業者である祖父、楠田喜弥人氏は1943年、南島原市西有家にロープ工場を創立します。きのこの人工栽培に着目、県からの指導を受け、長崎県えのき茸生産組合を設立、1976年に法人化し現在に至ります。父である現社長の喜熊氏は幼少期から家

業を手伝い、1982年2代目として代表に就任以来、きのこ本舗社を大きく成長させてきました。楠田さんは大学卒業後、埼玉の食品会社の営業に携わってきましたが2年半ほど経過した頃、家業を手伝うため帰郷。仕事に慣れ本音はまだ帰りたくなかったそうです。父である喜熊氏への想いを尋ねると、社長としての姿勢、ものづくりへのこだわり、社員への愛情を強く感じると同時に、島原半島の3市が連携する観光連盟の立ち上げから初代会長を続け、地域のために尽力する父の人柄に対する尊敬の言葉が次々と出てきました。

【今後のビジョン】

後継者として、楠田さんが挙げる課題は2つです。1つは事業承継。そのために楠田さんが取り組もうとしていることは経営指針の作成です。「企業は人なり、人は品性なり」という企業理念が同社にはあります。楠田さんはこの理念をさらに社員と共有し、社内に浸透させるため指針を成文化し自らが実践していきたいと強く語ります。大きな一歩として10月から始まる、島原支部で取り組む経営指針実践セミナーに参加されています。

2つ目は売り上げの拡大。規格外のきのこから開発された養々麺という主力加工食品を軸に、きのこの栽培に力を入れ、同時にアンテナショップでもある「雲か山か」と自社オリジナルの「通信販売」の充実を図っ



ていく予定です。楠田さんのこの想いの背景には市場への危機感と組織の課題があります。同社は独自の販売ルートや営業力で事業を拡大してきましたが今後は人口減に伴う市場の縮小が予想できます。長崎や九州にとどまらず全国、海外の市場に向けて販路を拡大していきたいと考えています。組織の課題については創業から60年を超え、100年企業という通過点のため、今までの「家業」から「企業」へのシフトチェンジの必要性を感じています。そのためにも前述の経営指針の実践を社員教育と位置付け、選ばれる企業づくりを目指しています。

【無限の可能性】

楠田さんは終始「まだまだです、今から実践しなければなりません」と話されましたが、私はとても大きな可能性を感じました。1点目は経営指針の作成と、実践するという強い意志です。2点目は年々厳しくなっているものの、農業高校からの新卒採用を続けていること。3点目は2005年から継続している外国人実習生の受け入れの継続。さらに楠田さんは実習生の方々に、期間を終えて帰国するのではなく永続的に同社で働いていただけるよう、職場環境を改善していきたいと考えている点です。現在はベトナムの女性が実習生として頑張っているようですが、今回初めて男性と面談し、その時点で頑張り次第では将来の取締役も視野に入れた永続的な関係を計画したそうです。最後に、現在約220名の雇用があること。地域で雇用を守り今後外国人実習生も地域で暮らし、過疎化する地域に新しい家族をもたらし、同時に若者を採用し育てていく。これはまさに同友会の四位一体（経営指針、社員教育、共同求人、ダイバーシティ経営）の経営そのものです。まだ30代半ば。今後経営者として様々な経験が待ち受けていると思います。しかし課題解決への挑戦の意志を持ち、同友会の仲間と共に学んでいこうとする経営者の責任を持つ楠田さんは、きっといかなる状況も打破し、地域に選ばれ続ける企業として発展させていかれると強く感じた訪問でした。

<企業理念>

企業は人なり、人は品性なり

<会社概要>

・(株)雲仙きのこ本舗
住所：南島原市有家町尾上3147
TEL：0957-82-0011 FAX：0957-82-0030

・(株)雲仙湯けむりファーム
住所：雲仙市千々石町戌1642-1
TEL：0957-37-2439 FAX：0957-82-0030
(文責 事務局 峰 圭太)

新入会員の皆さんです <10月入会>

(敬称略)

<入 会>

支 部 名	長崎出島支部		
氏 名	しらいし なおこ	白石 直子	
企 業 名	個別学習塾 勉強ラボ		
役 職 名	代表者		
企 業 住 所	〒852-8055 長崎市虹が丘町5-12(本校)		
T E L	095-894-5380	F A X	095-894-5310
業 種	学習塾		
企 業 PR	発達障がいや不登校の子ども達が個性を十分に発揮できる多様な学びの場、活躍の場を提供し生きる力をつけていきます。		
スポンサー	中村 こずえ		



支 部 名	長崎出島支部		
氏 名	たちやま まさや	立山 雅也	
企 業 名	(株)アシスト		
役 職 名	代表取締役		
企 業 住 所	〒851-0103 長崎市中里町1193-1 B201		
T E L	095-832-0780	F A X	095-832-0781
業 種	訪問看護、有料老人ホーム、デイサービス、企業主導型保育園		
企 業 PR	人の役に立ち、人に必要とされ、人に愛され、人を愛する企業であり続けます。		
スポンサー	同友会事務局		



書籍の紹介

購入を希望される場合は、同友会事務局(095-822-0680)までご連絡をお願いします。



「人を生かす経営 ～中小企業における労使関係の見解」

A5判 57ページ 頒価 500円

本書から学ぶべきことは、経営者の経営姿勢の確立こそ社員との信頼関係を築く出発点、経営指針の成文化とその全社実践の重要性、社員をもっと信頼できるパートナーと考え、高い次元の経営をめざし共に育ちあう教育(共育)的人間関係をうちたてること(「まえがき」より)。



「経営指針成文化と実践の手引き」

A4判 93ページ 頒価 2,000円

第1章 同友会らしい「経営指針」成文化と全社実践の進め方
第2章 「人を生かす経営」と強靱な経営体質に向けて
第3章 経営理念 第4章 10年ビジョン
第5章 経営方針 第6章 経営計画の策定
第7章 経営指針の実践

11月理事会 報告

11月7日(木) つくば倶楽部 出席25名 欠席2名

開会あいさつ (抜粋) - 金井代表理事

経営フォーラムは見事に成功しました、大変お疲れさまでした。テーマに「次代」とありましたが、これから役員・委員長の改選になります。次につながる人選をお願いしたいと思います。先日は県産業労働部との意見交換会も開催されましたが、県からは11名、会員は26名でした。意見交換会はこれからもっと続けていきたいという話になっています。そうすることで長崎同友会の発展にもつながると思います。

仲間づくりについて

- 1) 入会・退会の承認について
 - 3名の入会、4名の退会を承認。1名の3月末での退会を確認
- 2) 仲間づくりの進捗状況・具体的活動状況について
 - ・ 原田仲間づくり委員長 総括 - (代理：山田事務局長)
 - 11月14日 第2回県下一斉仲間づくりの日の取組みをよろしくお願いします。
 - ・ 金井代表理事 - 退会者が増えています、責任を感じています。中同協では50周年 5万名と言っている中で、各県会員が増えています、長崎は減っています。11月14日に向けて頑張るしかないと思います。支部長各位は、リストやアポの進捗について確認をお願いします。理事の皆さんもご協力をお願いします。

協議・承認事項

- 1) 組織検討特別委員会を受けて - 金井代表理事
 - 継続検討
- 2) 賀詞交歓会について - 山田事務局長
 - ・ 来賓の承認について 他
 - 承認
- 3) 台風19号被害に対する支援金対応について - 山田事務局長 (三役会案) - 会からの拠出 + 各支部例会で募っていただく。
 - 三役会案を承認。各支部11月例会で募る
- 4) 来期に向けて - 山田事務局長
 - ① 2020年度に向けてのスケジュール確認
 - 資料にて確認
 - ② 議案書作成に向けてのスケジュール確認
 - 資料にて確認
 - ③ 定時総会 記念講演講師について - 4月17日(金) パークベルズ大村 (三役会案) - 東京同友会 (株)アクア 代表取締役社長 原田 弘良氏
 - 承認
 - ④ 第27回 経営フォーラム(担当 - 長崎出島支部) 実行委員長の交代について - 田中支部長
 - 承認
- 5) 台風被害3名へのお見舞い金対応について - 山田事務局長
 - 承認

報告・連絡事項

- 1) 10月 県本部・支部・委員会等の活動状況について <委員会等>

例会	<ol style="list-style-type: none"> 1、グループディスカッションシートについて - 再度詳細を報告 2、各支部9月例会の「評価・検証」報告 3、来期例会について 4、事務局より、その他持ち寄り議題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月8日SDGs 勉強会、11月15日産業労働部意見交換会
経労	<p>(今回の活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 2-1 「経営者塾」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 完成、10/19経営フォーラムにて配布 次回のDOYUNewsで全会員に配布 10/23 経営労働委員会にて 各支部委員長に協力要請済 2-2 「経営指針実践セミナー」の開催 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 10/26 第4回開催 参加者 7名 / 申込み14名 + ゲスト1名 10/16 島原支部第1回開催 参加者10名 / 申込み13名 2-3 県委員会と支部委員会活動の活発化 <ul style="list-style-type: none"> 10/24 2019年度 第3回経営労働委員会開催 ⇒ 浦上・大村・諫早・島原・佐世保・県委員長・事務局 参加 <ol style="list-style-type: none"> 1. 労使見解 勉強 2. 経営指針実践セミナー開催状況 2コース 進行中 3. 今年度の経営労働委員会の活動の報告(前期と後期) <ul style="list-style-type: none"> ・ 浦上 経営理念、経営指針のアンケート実施を契機に、経営労働委員会の活動を広げていきたい ・ 出島 12月にランチミーティングを企画 ・ 島原 経営指針実践セミナー開催できた ・ 佐世保 11/9・10に経営指針勉強会を開催 10名以上参加予定 ・ 五島 10月に宇土委員長例会報告 予定 <ol style="list-style-type: none"> 2-4 その他 <ul style="list-style-type: none"> 第5次ビジョン達成に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状では会員の経営理念、経営指針の成文化率が不明のため、年内にアンケートを実施する → e.doyuにて配信 + 各支部委員長が100%回収を目指す
共育	<p>11月16日 新入社員フォローアップセミナー開催予定 場所：諫早市社会福祉会館 時間：13:00-16:00 その後：県共育委員会 同日16:00-17:00 場所 同会場 セミナーテーマ 伝える力(伝達力)</p>
政策	<ul style="list-style-type: none"> ■ 10/19(土)静岡同友会「憲章・条例学習会」にて時委員長が報告 ■ 10/21(月)第2回長崎市中小企業振興基本条例制定プロジェクト集会 ■ 10/24(木)第3回政策委員会 ■ 11/5(火)18:00~20:40「長崎県産業労働部との意見交換会」

情報 広報	10月28日(月)19時00分～ 同友会事務局 出席者5名 1. 広報誌 編集会議 2. ホームページについて 3. その他・情報交換 中同協 e.doyu 担当事務局会議(10/23)報告
仲間 づくり	11月14日「仲間づくりの日」開催に向けて
ビジョン	10月28日(月)委員会を開催。 ・「5次ビジョン」と「ビジョン到達に向けての7つの柱」の普及活動について ・経営労働委員会からの提案について ・委員会進捗状況検証について
ダイバー シティ	10月11日(火)18:30～つくば倶楽部 11月18日ダイバーシティ委員会例会のシミュレーション後、委員会を開催 ・11月例会の内容進行等を決議 ・長崎浦上・長崎出島支部では12月にLGBTの勉強会を開催予定 ・長崎浦上支部では実習受入の話を役員会でしたが受入までいたらなかった。(距離の問題) ・島原支部では支援学校の実習受入を目指して動いている ・諫早支部では支援学校との連携から実習受入をしていただいている 前回の例会のときのアンケートを参考に来年の秋の実習に向けて特別支援学校の先生と情報交換をしてつなげていく。
共同 求人	10月15日：第5回県共同求人委員会開催@シーハットおおむら ・県ダイバーシティ委員会からの提案 県内高等教育機関に通う障がいをお持ちの学生さんの求人活動を合同でできないか提案→担当教員との情報交換からスタートで合意。 ・第1回「社長飯」の開催 11月15日、大学生とのごっくばらんな懇親会「社長飯」を炉談にて開催 ・来期の県共同求人委員会活動計画と組閣 ・各支部委員会活動報告 ・共同求人委員会パンフレット作成 ・広報誌活用 ・産業雇用安定センターの活用 各会社に求人票を出してもらうよう周知・啓蒙する ・産業労働部「人材育成と確保のためのキャリアパス構築」セミナー参加報告 ・野方会員による例会を通した求人活動実践の流布

4委員会	・経営者塾のリーフレット完成(経営フォーラムから配布) ・11/8 SDGs勉強会を開催(つくば倶楽部)
青年 経営者 会	10/9役員会。青全交の感想報告、経営フォーラムの参加状況についてなど、九州沖縄合同例会について議論

- 2) 第26回 経営フォーラムについて - 平湯実行委員長・廣谷副実行委員長
・日時/10月19日(土) 13:00～20:45
・会場/国立諫早青少年自然の家 ・参加費/6,000円
・テーマ/「令和維新」～大自然の中で初心に戻り 次代の経営力を創る～
・登録・出席状況

	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目 標	40	40	50	70	35	60	15	10	320
登録会員	38	38	43	58	24	29	14	9	253
登録ゲスト	2	9	9	47	2	3	1	1	74
登録合計	40	47	52	105	26	32	15	10	327
<来賓 11名、佐賀同友会 3名含め 登録 341名>									
出席会員	29	32	31	48	19	22	10	8	199
出席ゲスト	1	8	6	36	0	3	1	0	55
出席合計	30	40	37	84	19	25	11	8	254
<来賓 11名、佐賀同友会 3名含め 出席 268名>									

(平湯実行委員長) - 341名の登録ありがとうございました。当初の目的は「次代につなぐ」「原点回帰」としていましたが、みなさん学んで感じていただけたと思います。諫早青少年自然の家で開催したことで諫早支部も原点に帰ろうという動きもありました。役員会の際に『共に育つ』を輪読しようということになりました。支部にとっても良かったと思います。これからも支部活動を通して長崎同友会の発展につながるよう頑張ります。

(廣谷副実行委員長) - 皆さんありがとうございました。当日は268名の方に参加いただきました。諫早支部にとって大変なフォーラムでしたが、団結力が増しました。本当によいフォーラムだったと思います。

- 3) 例会について(更なる充実をめざして) - 本多例会委員長
出席率や返信率が低くなっています。たくさんの方に参加してもらえるように声掛けをお願いします。例会については各支部さまざま取り組みがされており、会員のPRタイムを設けている支部もあります。会員や委員会のPRなど、さまざまな人が前に立つような時間をとっていただきたいと思います。グループディスカッションについても、まとめるのが苦手な方がグループ長の場合は、サポートできる方をつけていただくか、理事の方に協力いただきたいと思います。

- 4) 中同協 主要行事の参加状況と報告
・第20回 障害者問題全国交流会 参加報告
- 中村副代表理事、峰事務局次長より

※次回開催 12月5日(木) 17時30分(長崎)

会員動向

会 員 数 (11月1日現在)

	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目標	134	130	125	100	90	200	45	38	900
期首	113	112	97	91	68	181	42	31	735
現在	111	113	100	89	68	183	40	32	736

退会者 (敬称略)

会員名	会社名	支部名	入会年月
山口 健太郎	未来クリエイティブジャパン(株)	長崎出島	2018年9月
松野 純也	松野商店・民宿雲仙	諫 早	2019年2月
吉塚 勇樹	吉塚園芸	諫 早	2016年9月
清水 多聞	(株)ケーブルテレビジョン島原	島 原	2018年7月

12月例会案内

他支部の例会情報は、ホームページや e.doyu から閲覧・参加申込可能です。

●長崎浦上支部・長崎出島支部

日 時 12月17日(火) 18:30
会 場 サンプリエール
内 容 合同忘年例会

12月忘年例会、長崎出島支部と合同で開催することに決定。

●大村支部

日 時 12月19日(木)
会 場 長崎インターナショナルホテル
テ ー マ 「私の事業紹介」拡大版
報 告 者 大村支部会員有志 10名予定

本年5月例会より会員の相互理解を目的として経営体験報告の前に5分間設けて開始した「私の事業紹介」。これまでに5名会員が登壇し会員企業の事業PRの機会となっています。年末最後の例会では最大10名の会員に登場していただき会員同士の相互理解、会員企業間取引などを活発にするために「私の事業紹介」拡大版を行います。

●諫早支部

日 時 12月19日(木) 18:30～21:00
会 場 四季の蔵 食楽亭
内 容 ・忘年例会：諫早支部の今年を振り返って
～各委員会活動など良かったこと・悪かったこと～
・新入会員3分間スピーチ

・各委員会ごとに一年を振り返りかえる。
・新入会員による3分間スピーチ。『同友会で学んだこと』『企業PR』

●島原支部

日 時 12月19日(木) 18:00～20:00
会 場 HOTELシーサイド島原
内 容 忘年会&クリスマス会

同友会活動を知ってもらおうということで家族を招待する。家族の子供たちの事を考えてスタート時間は18:00からとなりました。

●佐世保支部

日 時 12月17日(火) 19:00～20:10
会 場 セントラルホテル佐世保
テ ー マ 「やってみること」の大切さ
報 告 者 着付教室 はるいろ。代表者
力武 貴子 会員

同友会に入会してちょうど1年。ビジネスランチ参加をきっかけに入会し、小さなお子さまがいらっしゃる中、例会・ビジネスランチ・経営理念を作ろう会・経営計画書策定セミナーなど、同友会活動に積極的に参加されています。その中で「やってみること」の大切さに改めて気づかされたとのこと。開業して2年ですが、社会人の頃から着物の世界を学び、結婚・出産を経験しながらも着付け講師をずっと継続されている力武さんの、これまでの歩み・同友会での学び・これからのビジョンをお話いただけます。

●北松浦支部

日 時 12月17日(火)
会 場 松浦シティホテル
テ ー マ 調整中
報 告 者 行政書士 松永千登勢事務所
松永 千登勢 氏

●五島支部

日 時 12月18日(水) 18:30～
会 場 観光ビル はたなか
内 容 忘年例会

●青年経営者会

日 時 調整中
会 場 調整中
内 容 臨時総会

投稿募集のご案内

DOYU ニュースでは会員の皆様の投稿を募集しております。
企業訪問や支部・地区会等の行事や取り組みなどご紹介下さい。

●文字数/約500字

●画像/歓迎します

掲載/情報広報委員会にて選考

投稿先/情報広報委員または同友会事務局まで

メール/jimu@nagasaki.doyu.jp



折込サービスのご案内

会員企業の皆様で制作されたチラシを広報誌と一緒に会員に配布するサービスを行っています。

毎月10日迄に事務局宛お届け下さい。発送は毎月20日～月末に行います。支部指定も出来ます。

A4チラシ1枚5円です。**A3チラシは2枚分**となります。ご利用お待ちしております。